

ファシリティマネジャーのための リスク対応事例

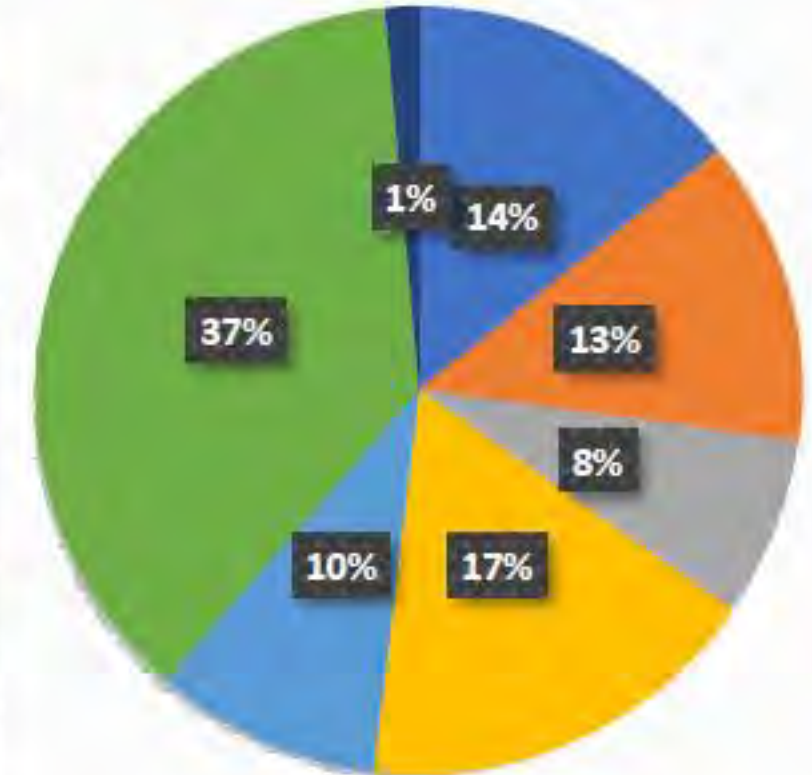
リスクマネジメント研究部会

はじめに

「Afterコロナ」を迎え、昨今のリスク対策の課題と対応事例についてお話します。新型コロナウイルスやウクライナ紛争は、事業リスクは地震や風水害だけでは無い事を改めて示しました。しかし、企業のBCPの想定リスクは未だに個別災害が多く、具体的な対策が未実施の企業も見られます。一方、「耐震・免振・制振」構造で揺れを抑え発電設備により停電時でも一定の給電が可能な施設や様々な機能を有した防災備品・サービスが登場しています。本講演では昨今のリスク対応の取組みとして、「被災しない施設の選択」「帰宅困難者対策と帰宅抑制解除の検討」「自衛消防隊の再編成と訓練」「防災備品・サービス」などファシリティマネジャーにとってすぐに役立つ事例についてご紹介いたします。

防災セミナーでのアンケート結果から

防災対策の段階	件数	割合
①対策規定を作成している段階	30	14.3%
②具体的な「対応マニュアル」を作成している段階	27	12.9%
③図上訓練などを行っている段階	16	7.6%
④個別の実働訓練を行っている段階（ex.消火器・AEDなどの取扱い）	36	17.1%
⑤諸々の対応資機材を使用した総合的な実働（実地）訓練を行っている段階	20	9.5%
わからない（知らない）	78	37.1%
空白	3	1.4%
総計	210	100.0%



◆ 今後はコロナ禍の落ち着きと共に「訓練」が増加すると期待

防災対策において導入（実施）済みの「モノ」

防災対策において導入（実施）済みの「モノ」	回答数	割合
停電時に使用する照明機材（ライト・ランタン等）	95	45.2%
非常用のバッテリー（蓄電池機器）	92	43.8%
非常用のヘルメット	12	5.7%
卓上機器（P C等）の転倒防止、書類の散乱防止対策	40	19.0%
フロア内の書庫・金庫等重量家具備品の転倒防止	69	32.9%
保管庫・倉庫の物品棚の転倒防止・荷崩れ防止	73	34.8%
被災時に使用する汚物・ゴミ等の分別容器（備品）	26	12.4%
アンケート回答総数	210	100

防災対策事例

取組み

消火器が置いてあるところだけ赤いタイルカーペットにしている

非常用発電機 3 台、炊飯セット、プロパンガスの備蓄、浄水器、排水ポンプ等備蓄

止水板の導入と定期的な設置訓練

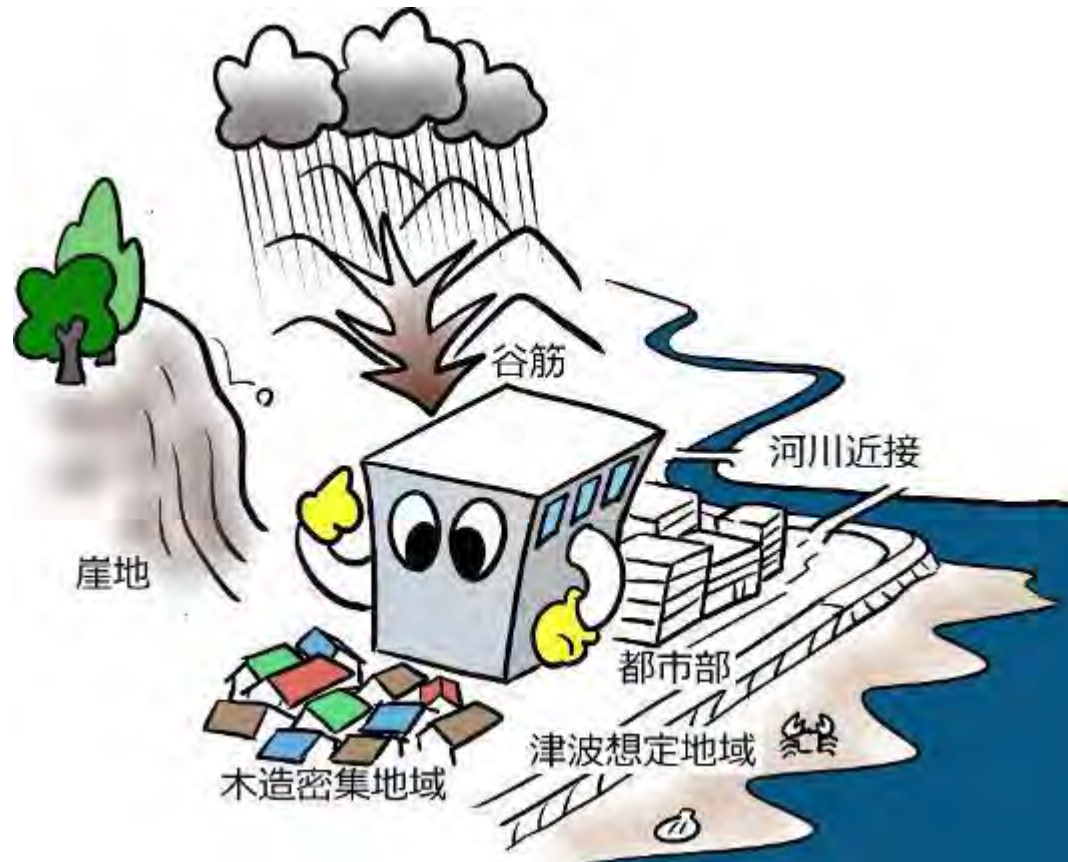
ノーパンク自転車の準備、船舶輸送ルート of 確保等

各事業所にて防災用備品を備蓄

防災ヘルメットの配布

防災の基本中の基本・立地選定

立地リスクの把握

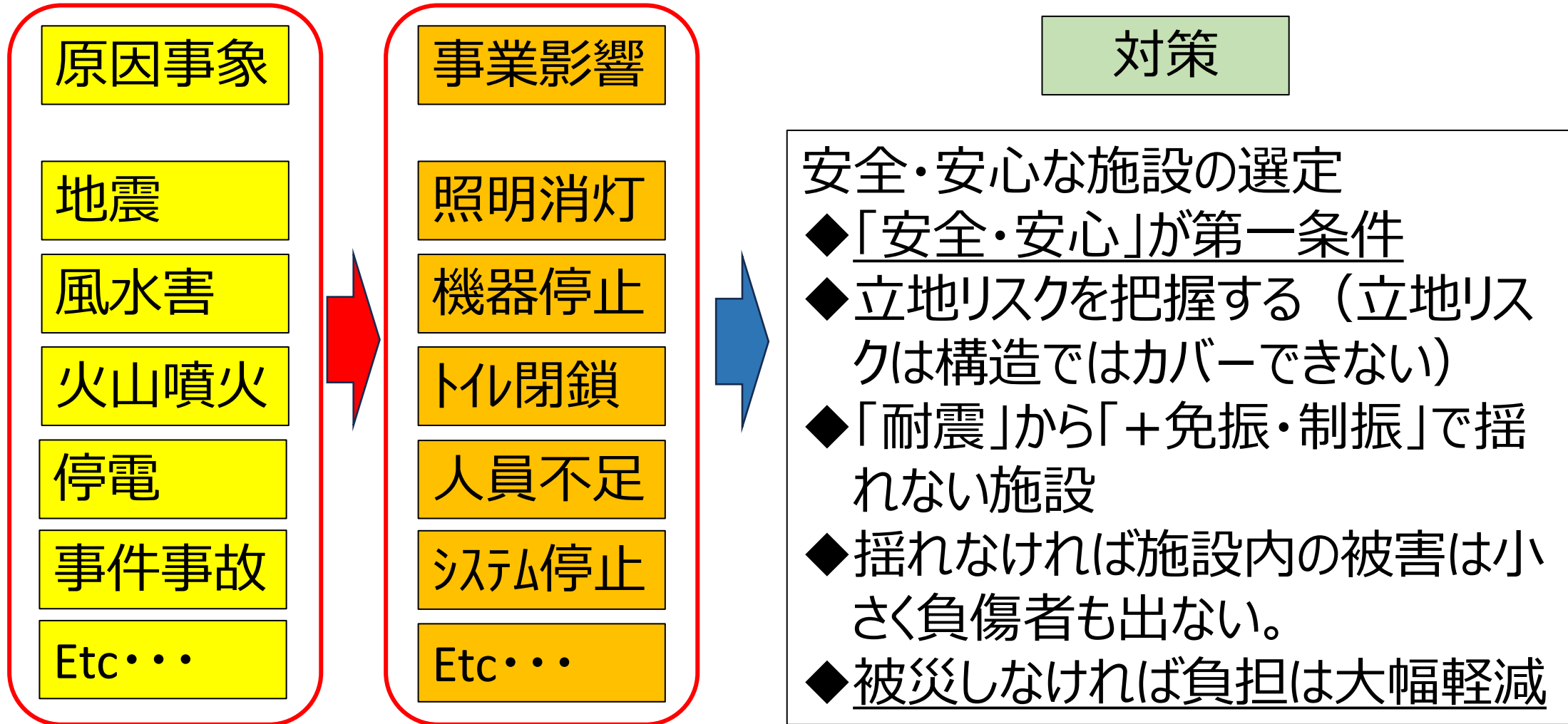


東京一極集中のリスクは高まるばかり。その住所の必要性は？

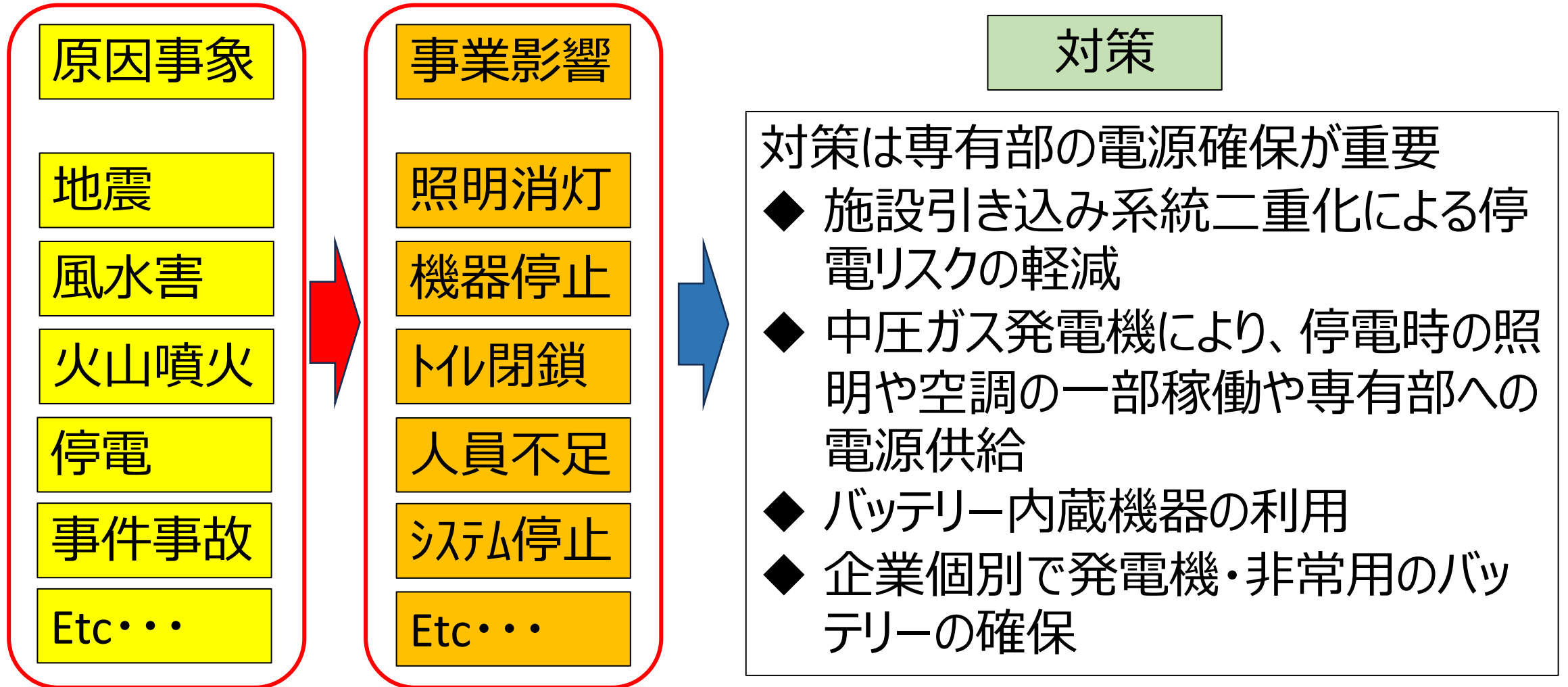


コロナ禍が過ぎれば「喉元なんとやら・・・」通勤ラッシュは再開され、都心過密の状況は改善されていません。万一、首都直下地震が襲った場合には過密都市東京はどうなってしまうのでしょうか。

「被災しない施設の選択」

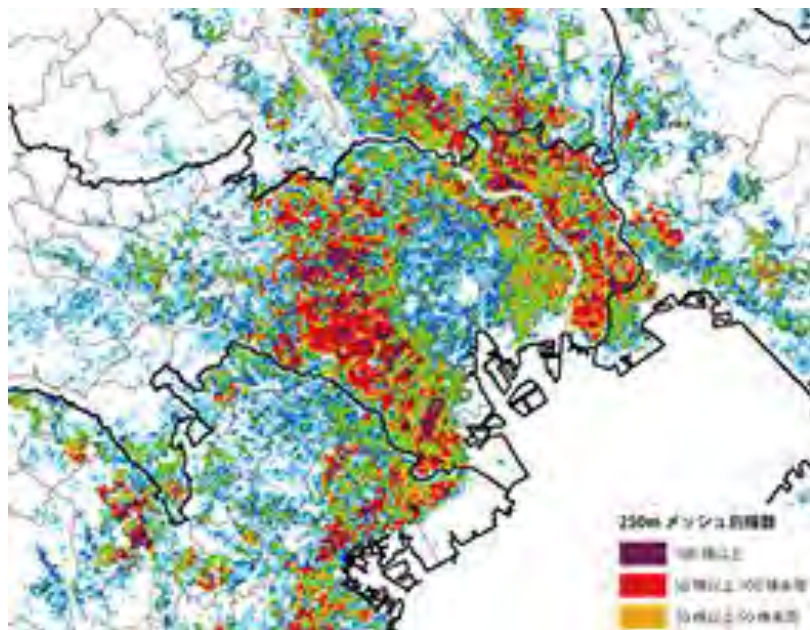


ファシリティ対策は電源確保が重要



「帰宅困難者対策と帰宅抑制解除の検討」

首都直下地震で帰れない自社の「帰宅困難者」向けの備蓄は確保が進んでいるようですが・・・帰宅抑制解除はどのように判断しますか？帰宅許可社員への安全配慮義務はどのように果たしますか？

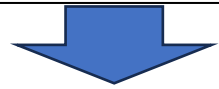


内閣府資料より

左の図は首都直下地震での火災発生リスクを図にしたものです。山手線の外側に広がるドーナツ型の住宅地は大火災となる可能性があります。この中を地図一枚を頼りに徒歩帰宅させますか？貴方は帰れますか？

被害情報の見える化と帰宅ルートの検討

電車は止まっているし、どこから帰せるのかな？



首都直下地震では広い地域が火災となり、公共交通機関の停止も長期間となります。
一方、企業は社員に「情報」を提供する必要があります。



- DIGの手法を活用し地図上に社会被害情報を記入し、被害情報の見える化と帰宅ルートを検討する訓練を行っている企業があります。
貴方の会社の対策本部、地図はありますか？

課題・備蓄食料

備蓄の質と置き場所の確保

「三日分の水と食料は確保しました」

- 本当に備蓄食料で三日過ごせますか？
- 応急復旧や災害対策本部員として働く人が備蓄の非常食で足りえますか？
- 三日たてば帰れるでしょうか？
- 帰り道はどこまで行けば水と食料を調達できますか？



施設周辺は混乱
食事は困難



家族の安否が心配
帰りたい・・・



情報収集や連絡方法は
どれも・・・

課題

トイレが・・・汚物保管が・・・



断水や排水トラブルでトイレが使えないかもしれません。最近では、非常トイレを備蓄する企業も増えています。

しかし災害時には社員の人数×トイレ回数分の大小便がフロアのトイレに溢れます。使用済み非常用トイレの保管方法・保管場所は決まっていますか？



ルール化しておかないと
F M担当の貴方が掃除をすることになります。

そろそろ真面目に考えないと、先に災害が起きるかもしれませんね。

有事想定対応

Jアラート発令・・・その時、どうする

ウクライナ紛争、イスラエルとハマスの戦闘、周辺国のミサイル発射・・・国際有事をリスクとして具体的に考えなくてはならない時代になりました。

もし、ミサイルが着弾したら・・・？

もし、周辺海域で戦争が発生したらシーレーンは？



- 地下深いところの地下階を有する施設に移転した企業があります。
- 周辺国の国際紛争や核攻撃を想定した訓練を行った企業があります。

「自衛消防隊の再編成と訓練」

- ◆ コロナ禍は訓練ができなかったため、人事異動で未経験者ばかりになってしまいました。
- ◆ 自社に合ったマニュアルと社員への訓練が必要です。
- ◆ リモートワークと固定席廃止を前提とし、勤務状況を考慮した自衛消防隊を再編成しましょう。

自社特性に合わせた自衛消防隊の任務



「火災」と「地震」の対応の理解

判りやすいマニュアル

勤務状況を考慮した自衛消防隊の要員



マニュアルの読み合わせ訓練

会議室等での訓練

フロアでの訓練

「防災備品・サービス」

全ての企業が最新鋭の防災機能を備えた施設に居るわけでは無い以上、様々な機器やサービスを活用し安全・安心を確保することが肝要です。



エレベーター内・非常用BOX

鍵保管庫



非常用電源内蔵照明



停電対応屋外照明



倉庫内転倒防止



「防災備品・サービス」

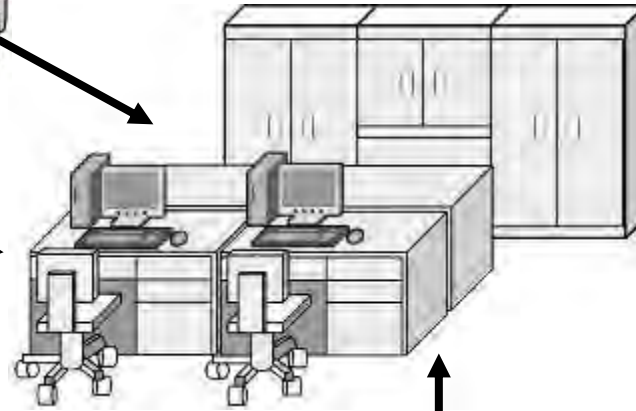
災害用備蓄



ヘルメット



汚物保管庫



金庫・保管庫



非常用電源
・発電機

転倒防止ラック



- ◆安否確認サービス
- ◆AIリスク管理情報サービス
- ◆緊急時情報共有システム
- ◆リモート勤務対応サービス

リスクマネジメント研究部会の紹介

リスクマネジメント研究部会は、毎月一回リスクマネジメントに関する情報交換、事例研究、各種見学や訓練参加等を行っています。

最近は、zoomとリアルのハイブリット開催ですので、東京近郊以外の方も参加できます。防災・事業継続の情報や施設のリスクの見直し、訓練手法など様々な話題に取り組んでいます。

ご興味のある方は、お気軽に J F M A 事務局・大野さんまでご連絡をお願いします。

2023年の定例会以外の活動

- ・6/13先進照明・ユニティ様見学
- ・7/20三菱地所様「常盤橋タワー」見学
- ・9月「JFMA防災特別セミナー「実践していますか？身近な防災対策」視聴343名
- ・10/5金庫製造・日本アエスケイ様見学
- ・11/9日本アムウェイ様防災訓練見学
- ・12/19日本アムウェイ様救護訓練見学

